

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
推進校実施報告書

- 1 学校名：滋賀県甲賀市立柏木小学校
- 2 実施日時：2018（平成 30）年 10 月 19 日（金）10：30-12：10
- 3 対象：児童 160 名（全校）、保護者
- 4 派遣アスリート：宇田 秀生さん
（男子パラトライアスロン PTS4 世界ランク 3 位）
- 5 授業内容：講演、実技

2018（平成 30）年 10 月 19 日（金）に、滋賀県甲賀市立柏木小学校にて、パラトライアスロンの宇田秀夫さんの講演と実技体験が行われました。本実践は、PTA 親子人権集会と関連付けて行われたことから、保護者の方々も参観されました。

宇田さんの講演に先立って、前日に全クラスで宇田さんの映像を見ながら事前学習が行われました。そのため、子どもたちは会場の体育館に入ってくる間もなく、宇田さんに大きな声をかけていました。

講演の内容は、宇田さんの自己紹介に始まり、パラトライアスロンについて、自身の受傷の経緯について、そして宇田さんが日々心掛けているポジティブな心の持ち方についての 3 部で構成されていました。

パラトライアスロンについては、競技種目の特性や障害に合わせたクラス分けについて、映像を交えながら紹介されました。あまり見たことのないパラトライアスロンの映像の中で、片腕で泳ぐ選手の姿や片足で自転車に乗る選手の姿が映し出されたときは、子ども達から歓声があがっていました。また、宇田さんが質問をすると、子どもたちが積極的に手を挙げて答える様子も見られました。そして、これらの経験を通して、宇田さんは多様な文化と接し、また多くの友人ができたことから、子ども達にもたくさん友達を作っていってほしい、と伝えていました。

自身の受傷の経緯については、結婚して間もない時期に仕事の事故で生死をさまよったこと、それでも奇跡的に一命をとり止めたこと、そして事故後 2 週間程度でリハビリを始めたことなどをお話されました。事故後 5 日目には、ピースサインできるまでに回復し、パラリンピックに出場できるのではないかと、ということまで考え始めていたというエピソードには、保護者の方々も驚いている様子でした。また、地元の友人が 1 万 2 千羽の折り紙で作った鶴を届けてくれたエピソードや、退院してからは、障害を負う前には感じなかった人の目が気になり辛い思いもしたけれど、持ち前のチャレンジ精神と家族や友人の支えによって、前向きになることができた、というエピソードもご紹介いただきました。そして、これらの経験から、障害者の人を見つけたら温かい目で見てほしい、と子ども達に伝えていました。

ポジティブな心の持ち方については、自らの経験から、友達を大切にすること、できないことや嫌いなこともチャレンジすれば少しずつ慣れてくること、そして何より笑顔でいることの大切さをお話されました。

講演の後には、宇田さんが実際に行っているストレッチ体験と、練習で使用している自転車に代表の子ども達が乗る自転車体験を行いました。特に自転車体験では、スピードメーターを付けて、実際にどれくらいのスピー

ドが出ているのかを測定しました。代表の子ども達は一生懸命に自転車を漕いでおり、見守る子ども達も歓声をあげていました。

実技体験終了後、宇田さんから、2020年のパラリンピック東京大会に向けて頑張るので応援してください、と挨拶がありました。

最後に、校長先生及び代表生徒からの感想と謝辞があり、散会となりました。

6 授業の様子



【 講演の様子① 】



【 講演の様子② 】



【 ストレッチ体験 】



【 自転車体験 】



【 代表児童の挨拶 】